

ヨハネ5 : 1-47

5:1 その後、ユダヤ人の祭りがあって、イエスはエルサレムに上られた。5:2 さて、エルサレムには、羊の門の近くに、ヘブル語でベテスタと呼ばれる池があって、五つの回廊がついていた。5:3 その中に大ぜいの病人、盲人、足のなえた者、やせ衰えた者たちが伏せっていた。（彼らは、水が動くのを待っていた。それは、主の使いがときどき池に降りて来て、水が動くことがあり、水が動いたとき、真っ先に水に入る者は、どんな病気にかかっているか、いやされたからである。）5:5 そこに、三十八年もの間、病気にかかっている人がいた。5:6 イエスは彼が伏せっているのを見、それがもう長い間のことなのを知って、彼に言われた。「よくなりたいか。」5:7 病人は答えた。「主よ。私には、水がかき回されたとき、池の中に私を入れてくれる人がいません。行きかけると、もうほかの人が先に降りて行くのです。」5:8 イエスは彼に言われた。「起きて、床を取り上げて歩きなさい。」5:9 すると、その人はすぐに直って、床を取り上げて歩き出した。ところが、その日は安息日であった。5:10 そこでユダヤ人たちは、そのいやされた人に言った。「きょうは安息日だ。床を取り上げてはいけない。」5:11 しかし、その人は彼らに答えた。「私を直して下さった方が、『床を取り上げて歩け』と言われたのです。」5:12 彼らは尋ねた。「『取り上げて歩け』と言った人はだれだ。」5:13 しかし、いやされた人は、それがだれであるか知らなかった。人が大ぜいそこにいる間に、イエスは立ち去られたからである。5:14 その後、イエスは宮の中で彼を見つけて言われた。「見なさい。あなたはよくなった。もう罪を犯してはなりません。そうでないともっと悪い事があなたの身に起こるから。」5:15 その人は行って、ユダヤ人たちに、自分を直してくれた方はイエスだと告げた。5:16 このためユダヤ人たちは、イエスを迫害した。イエスが安息日にこのようなことをしておられたからである。5:17 イエスは彼らに答えられた。「わたしの父は今に至るまで働いておられます。ですからわたしも働いているのです。」5:18 このためユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとするようになった。イエスが安息日を破っておられただけでなく、ご自身を神と等しくして、神を自分の父と呼んでおられたからである。5:19 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。子は、父がしておられることを見て行う以外には、自分からは何事も行うことができません。父がなさることは何でも、子も同様にを行うのです。5:20 それは、父が子を愛して、ご自分のなさることをみな、子にお示しになるからです。また、これよりもさらに大きなわざを子に示されます。それは、あなたがたが驚き怪しむためです。5:21 父が死人を生かし、いのちをお与えになるように、子もまた、与えたいと思う者にいのちをお与えます。5:22 また、父はだれをもさばかず、すべてのさばきを子にゆだねられました。5:23 それは、すべての者が、父を敬うように子を敬うためです。子を敬わない者は、子を遣わした父をも敬いません。5:24 まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。5:25 まことに、まことに、あなたがたに告げます。死人が神の子の声を聞く時が来ます。今がその時です。そして、聞く者は生きるのです。5:26 それは、父がご自分のうちにいのちを持っておられるように、子にも、自分のうちにいのちを持つようにして下さったからです。5:27 また、父はさばきを行う権を子に与えられました。子は人の子だからです。5:28 このことに驚いてはなりません。墓の中にいる者がみな、子の声を聞いて出て来る時が来ます。5:29 善を行った者は、よみがえっていのちを受け、悪を行った者は、よみがえってさばきを受けるのです。5:30 わたしは、自分からは何事も行うことができません。ただ聞くとおりにさばくのです。そして、わたしのさばきは正しいのです。わたし自身の望むことを求めず、わたしを遣わした方のみこころを求めるからです。5:31 もしわたしだけが自分のことを証言するのなら、わたしの証言は真実ではありません。5:32 わたしについて証言する方がほかにあるのです。その方のわたしについて証言される証言が真実であることは、わたしが知っています。5:33 あなたがたは、ヨハネのところの人にやりましたが、彼は真理について証言しました。5:34 といっても、わたしは人の証言を受けるものではありません。わたしは、あなたがたが救われるために、そのことを言うのです。5:35 彼は燃えて輝くともしびであり、あなたがたはしばらくの間、その光の中で楽しむことを願ったのです。5:36 しかし、わたしにはヨハネの証言よりもすぐれた証言があります。父がわたしに成し遂げさせようとしてお

与えになったわざ、すなわちわたしが行っているわざそのものが、わたしについて、父がわたしを遣わしたことを証言しているのです。5:37 また、わたしを遣わした父ご自身がわたしについて証言しておられます。あなたがたは、まだ一度もその御声を聞いたこともなく、御姿を見たこともありません。5:38 また、そのみことばをあなたがたのうちにとどめてもいません。父が遣わした者をあなたがたが信じないからです。5:39 あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その聖書が、わたしについて証言しているのです。5:40 それなのに、あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません。5:41 わたしは人からの栄誉は受けません。5:42 ただ、わたしはあなたがたを知っています。あなたがたのうちには、神の愛がありません。5:43 わたしはわたしの父の名によって来ましたが、あなたがたはわたしを受け入れません。ほかの人がその人自身の名において来れば、あなたがたはその人を受け入れるのです。5:44 互いの栄誉は受けても、唯一の神からの栄誉を求めないあなたがたは、どうして信じることができますか。5:45 わたしが、父の前にあなたがたを訴えようとしていると思っはなりません。あなたがたを訴える者は、あなたがたが望みをおいているモーセです。5:46 もしあなたがたがモーセを信じているのなら、わたしを信じたはずです。モーセが書いたのはわたしのことだからです。5:47 しかし、あなたがたがモーセの書を信じないのであれば、どうしてわたしのことばを信じるでしょう。」

導入

5章から、ヨハネの福音書の新しいセクションが始まります。この部分は、10章までです。2-4章で、ヨハネによるイエスの紹介がありました。それによると、イエスは天から地に来られたお方で、この世の罪を取り除く「神の小羊」です。

イエスは、ご自身の救いの御国が来たと宣言され、そこに入る条件について教えられます。

3章では、宗教では不十分であり、人は新しく生まれる必要があることがわかりました。4章では、私たちがどれほど罪深い者であっても、罪を悔い改めてイエスを神の御子として信じるなら、イエスは赦してくださいと学びました。また、イエスはご自身が神であることを証明するために奇跡を行われますが、奇跡を見ることなくイエスのことばを人々が信じるならそれに越したことはないということもわかりました。

5-10章で取り上げられるテーマは、イエスがご自身をメシヤであると宣言し、神とご自身を同等の立場に置かれたことについてです。これらのイエスの主張に、ユダヤ人たちは異議を唱えました。ユダヤ人は、自分たちがすでに神の契約の民であると考えていました。

5章を理解するためには、旧約聖書の背景が必要になってきます。

では、イザヤ書35：3-7を読みましょう。この個所では、神がユダヤ民族を救いに来られる未来の出来事についてイザヤが語ります。

35:3 弱った手を強め、よろめくひざをしっかりとさせよ。 35:4 心騒ぐ者たちに言え。「強くあれ、恐れるな。見よ、あなたがたの神を。復讐が、神の報いが来る。神は来て、あなたがたを救われる。」 35:5 そのとき、目の見えない者の目は開き、耳の聞こえない者の耳はあく。 35:6 そのとき、足のなえた者は鹿のようにとびはね、口のきけない者の舌は喜び歌う。荒野に水がわき出し、荒地に川が流れるからだ。 35:7 焼けた地は沢となり潤いのない地は水のわく所となり、ジャッカルの伏したねぐらは、葦やパピルスの茂みとなる。

足の不自由な男性を癒すことで、イエスは神の救いの時代の到来をはっきりと示されました。

次に、5章に入る前にユダヤ人の安息日の習慣についても知っておく必要があります。申命記5：12-15を読みましょう。

5:12 安息日を守って、これを聖なる日とせよ。あなたの神、【主】が命じられたとおりに。 5:13 六日間、働いて、あなたのすべての仕事をしなければならない。 5:14 しかし七日目は、あなたの神、【主】の安息である。あなたはどんな仕事もしてはならない。——あなたも、あなたの息子、娘も、あなたの男奴隷や女奴隷も、あなたの牛、ろばも、あなたのどんな家畜も、またあなたの町囲みのうちにいる在留異国人も——そうすれば、あなたの男奴隷も、女奴隷も、あなたと同じように休むことができる。 5:15 あなたは、自分がエジプトの地で奴隷であったこと、そして、あなたの神、【主】が力強い御手と伸べられた腕とをもって、あなたをそこから連れ出されたことを覚えていなければならない。それゆえ、あなたの神、【主】は、安息日を守るよう、あなたに命じられたのである。

神は週の一日を特別な日とし、すべての人が休息して神のすばらしさに思いをはせる日となさいました。また、エジプトで奴隷だった民を救い出してくださった神のご親切を覚える日でもありました。

しかし、ユダヤ人指導者たちはこの特別な日を汚し、人々の負担となるような決まり事をいくつも課しました。たたえるべき神よりもこの決まり事を守るほうを優先してしまったのです。

こういった旧約聖書の背景を念頭に、学びを始めたいと思います。

1. イエスは、足の不自由な男性を癒し、ご自身が神と対等であることを証明された。(1-8節)

イエスは、ユダヤ人が重んじる祭りの最中にエルサレムにおられました。そのとき、町に入る羊の門の近くにある池を通りかかりました。そこは、ヘブル語で「ベテスダ」と呼ばれていました。これは、「あわれみの家」という意味です。

当時の人々は、天使が時折天から降りてきて、池の水をかき回すと信じていました。天使が水をかき回した後、最初に池に入った人は、どんな病気でも治ると考えられていました。

池のほとりにある男性がいました。この人は38年も体が動かない状態でした。イエスは、この男性がそんなに長い間そこにいたことをご存知でした。(イエスは全知のお方だからです。)

イエスはこの人に、「よくなりたいか。」とおっしゃいました。

男性は、池の水がかき回されても、池まで運んでくれる人がいないとぼやきました。誰かに連れて行ってもらおうとしても、他の誰かが先に入ってしまうと言います。

イエスは続けて、「起きて、床を取り上げて歩きなさい。」とおっしゃいました。

みことばは、男性がすぐによくなって、床を取り上げて歩き出したと語ります。

ユダヤ人指導者たちは、この日が安息日だったので、癒された男性が床を運んだのを見て腹を立てました。安息日にそういうことをしてはならないという律法があったからです。

癒された男性は、自分を癒してくれた人が「床を取り上げて歩け」と言ったと説明しました。

ユダヤ人指導者たちは、神の安息日を守らない者は誰かを突き止めようとしていましたが、癒された男性も自分を癒してくれたのが誰であるか知りませんでした。後に、自分を癒してくれたのはイエスだと知った男性は、ユダヤ人指導者たちにこれを知らせました。

イエスが神殿で癒された男性と再会したとき、イエスはもう罪を犯さないようにと彼におっしゃいました。そしてその理由を、体が動かないことよりもっと悪いことが起こるかもしれないからと説明されました。

これが聖書の語る話です。

このお話の中に、重要なことがいくつか記されています。

まず、イエスが権威をもって言葉を男性にかけただけで、男性は癒されました。(8節)

聖書は、イエスに「天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。」(マタイ28:18)と語ります。

イエスは、私たちの人生にも権威をお持ちです。ですから、私たちが究極的に責任を果たすべきお方はイエスです。

次に、男性の病気は、人類全体の状態の一端に過ぎません。 私たちは墮落した世の中に住んでいますから、病気や死は呪いの一部です。

イエスは男性に、もう罪を犯さないように、さもなければもっと悪いことが起こるとおっしゃいました。おそらくこれは、また別の病気になることではなく、終わりの日に裁かれることを指していると思われます。

この奇跡は、人間の墮落による影響を終わりの日にイエスが帳消しにしてくださるという証拠となります。先週、私たちはイエスの復活を祝いました。イエスに信仰を置いているなら、いつの日か私たちの罪の呪いの影響も帳消しにされます。病気や死に悩まされることはなくなります。

3つめは、イエスが安息日にあえて癒されたことです。なぜでしょう。そんなことをすれば、宗教指導者が自分たちの作った律法のことで腹を立てるのは目に見えています。

イエスは安息日に癒して、神の働きをしておっしゃいました。これによって、ご自身を神と同等の立場に置かれました。

安息日は「休息」と「救い」の日です。神はユダヤの民に、安息日には休んで、エジプトから救われたことを思い出すようにとおっしゃいました。

癒された男性は、神殿に行って癒されたことを神に感謝し、神がしてくださったことを考えることができました。

イエスは、ご自身が安息日にしていることは神の働きであると指摘なさいました。(17節)

神は今も、体を休めて、神のことに神のすばらしさを思う休日を私たちが持つことを望んでおられます。私たちの休日において大切なのは、安息日に何をすべきかすべきでないかといった規則や決めごとではありません。神は、私たちが神と毎日つながっていることを望まれますが、私たちの休日はとくにイエスとゆっくり過ごし、信徒同士で交わる特別な日です。

18節には、このできごとの後、ユダヤ人たちがイエスを殺そうとしたとあります。その理由は、イエスが安息日の律法を破り、神と自分を対等としたからです。

19-30節で、イエスはユダヤ人指導者たちに答え、ご自身について語られました。

その中で、イエスは神と対等であるとおっしゃいました。永遠のいのちを与え、地上を裁く裁き主であるとおっしゃいました。

ヨハネの福音書の中で、ここが「イエス・キリストの神性」についてもっとも重要な個所です。

ヨハネの福音書全体を理解するには、この個所を理解しなければなりません。

19-23節は、原語のギリシャ語では、4つの単語を中心に書かれています。日本語では、「そこで」「それは」「また」などと訳されています。ここでは、「それは」を使うことにしましょう。

ひとつめの「それは」 (19節)

御子が父に対抗する独立した神となるような、身勝手な行動を起こすことはありません。それは、御子のなされることはすべて、父の望まれることと完全に一致しているからです。

つまり、イエスが父から離れて行動することはありえません。そんなことをすれば、イエスの神性を否定することになります。

有名な聖書学者ウェスコットは言いました。「完全な御子であるには、意志と行動において父と完全に一致することを必要とする。」

ふたつめの「それは」 (20節)

御子（イエス）は、父（神）のおできになることが何でもできます。それは、父が御子を愛しておられるからです。また、父はご自身のなされることをすべて御子に示されます。こうして、父と御子是对等にすべてをなさいます。

3つめの「それは」 (21節)

父は人を死からよみがえらせます。それによって、御子も人を死からよみがえらせることができます。人々は、神のみが死者をよみがえらせることができると考えていました（列王記第二5：7）。イエスはここで、ご自身が神と対等であるから、神のおできになるのと同じことができると言っておられるのです。

4つめの「それは」 (22節)

父は誰も裁かれません。それは、すべての裁きを御子（イエス）にゆだねられたからです。

創世記18：25は、「全世界をさばくお方は、公義を行うべきではありませんか。」と語ります。モーセは、神についてこう記しました。さて、全世界を裁くお方である神は、すべての裁きをイエスにゆだねられました。神と同じことをイエスがなさると分かっておられるからです。

最後に、23節でイエスは、神を敬うようにイエスを敬うべきだとおっしゃいました。ユダヤ人指導者たちは、神を敬うと言いながら、イエスは敬いませんでした。ですから、結局神のことも敬っていないことになります。

次に、24-30節に進んで、イエスのことばを見ていきましょう。

ここでイエスは、イエスのことばを聞いてイエスを遣わされた神を信じる者は「永遠のいのち」を得るとおっしゃいました。これは現在の可能性であり、将来への確信でもあります。

29節で、すべての人が死からよみがえるとイエスは明言なさいます。永遠の裁きを受けるためによみがえる者もいれば、イエスとともに過ごす永遠のいのちへとよみがえる者もいます。

この世でイエスを拒む者は、よみがえって永遠の裁きを受ける日に、たいへんな衝撃を受けるでしょう。一方、この世でイエスを信じる者は、復活の日に大きな祝福を受けるでしょう。

31-41節で、イエスのご自身の主張を裏付ける人や物事を示されます。

1. イエスについて告げ知らせ証言したバプテスマのヨハネ。(31-35節)
2. イエスの神性を証明するご自身の働き。ユダヤ人は、足の不自由な人が癒されるのを目撃したばかりでした。
3. 聖書（旧約聖書）の証言。イエスは、モーセがイエスについて記したとユダヤ人におっしゃいました。聖書の最初の5つの書トラーは、すべてイエスにつ

いての書です。ユダヤ人はモーセの書を理解していると思っていましたが、実際にはそうではありませんでした。もし本当に理解していたなら、イエスについての真相もわかったはずで

ユダヤ人は神を愛していると言いましたが、イエスを受け入れなかったことで、本当に神を愛していないことが明らかになりました。

彼らの信仰は偽善的でした。

ヨハネ5章から、私たち OIC にあてはめてどんなことが言えるでしょう。

1. イエスが神と対等のお方であることを、心と頭の両方で本当に理解する必要があります。
2. イエスのことばを信じることによってのみ、神を敬い、永遠のいのちを持つことができます。イエスが永遠のいのちを与えるお方であり、裁き主です。
3. 地上での神の働きは、永遠のいのちへと人々を救うことです。私たちはこれを理解する必要があります。人が救われるのは、イエスがご自身について語られることばを聞き入れて、そのご使命を信じる時です。イエスのご使命とは、私たちを含む全世界の人々の罪のために十字架で死なれることです。

神は今日もイエスのみことばをとおして働いておられます。私たちはイエスのことばを本当に信じているでしょうか。信じるというテストに合格できるでしょうか。それとも、ユダヤ人のように、不合格になってしまうでしょうか。神について自分なりの解釈をしたり、自分の思うように人生を生きようと思っていたりすると、不合格になってしまいます。

自分で勝手な決めごとを作っていませんか。愛に動かされるつながりの中にちゃんと生きていますか。

私たちは、壊れた世に生まれました。罪が神と私たちの間を引き離しています。

神は、その壊れた関係を修復するために、愛とあわれみによってイエスを遣わされました。関係修復のために神がなされたのは、ご自身の御子であるイエスに私たちの罪の罰を背負わせることでした。

神と正しい関係を築きたいなら、イエスというお方を知り、神が私たちをご自身のもとに帰らせるためにしてくださったことを知る必要があります。

今日の聖書箇所にあるイエスのことばを皆さんは信じますか。イエスは、永遠のいのち、罪の赦し、そして天国での将来を約束されます。

私はクリスチャンで神とイエスを愛していると言うなら、神の望まれることをしたいと思うでしょう。それは、人を罪から救うことです。

私たちに自分を救うことはできませんが、人間を救ってくださるイエスのことを周囲の人々に紹介することができます。

神は、私たちが望むなら、私たちをとおして働くことを望んでくださいます。